

令和8年度 第1学年 技術科 年間指導計画 予定年間授業時数： 35時間

使用教科書：東京書籍「新編 新しい技術・家庭 技術分野」

使用副教材：

教科の学習目標：ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

<学習内容>

学期	学習単元	学習内容
1	ガイダンス 4編 情報の技術 4編1章 6情報モラル 1編 材料と加工の技術の原理・法則と仕組み ・ものづくりの視点と進め方 ・材料（さまざまな材料、材料の特徴、材料と環境とのかかわり） ・設計（使用目的と製作品の決定、機能の検討、構造の工夫、使用する材料の選択、加工方法の検討、接合方法の検討、仕上げ方法の検討、製図）  2編 生物育成の技術 2編1章 生物育成の技術の原理・法則と仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルについて調べる。</li> <li>・知的財産の保護について知る。</li> <li>・身の回りの製品の材料と加工の技術について調べる。</li> <li>・木材・金属・プラスチックの特徴を調べる。</li> <li>・部品の組み合わせや接合の方法などを工夫して製品を丈夫にする方法を考える。</li> <li>・材料と目的に応じた工具・機器や加工法について知る。</li> <li>・使用目的や使用条件に即した製作品を構想する。</li> <li>・設計の手順を確認する。部品表を作成する。</li> <li>・生物を育成とわたしたちの生活の関連について考える。</li> <li>・目的とする生物の育成計画を立てる。</li> </ul>
2	2編2章 生物育成の技術による問題解決 2編3章 社会の発展と生物育成の技術 材料と加工 ・木材による製作（部品表と工程表、けがき、切断、切削、穴あけ・溝ほり、部品の検査と修正、組立て、組立ての検査と修正、表面と角の仕上げ、製作をふり返ろう） ・材料と加工に関する技術の評価・活用（社会・環境とのかかわり、材料と加工に関する技術とわたしたち）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的とする生物に適した管理作業を調べ、育成を行う。</li> <li>・生物を育てる技術が社会や環境に果たす役割を調べる。</li> <li>・材料を切断線にしたがって切断する。</li> <li>・材料ごとの部品加工法を調べる。</li> <li>・組み立てをする。組立後の検査と修正をする。</li> <li>・素材や用途にあった塗装や表面処理をする。</li> <li>・製作品の評価をする。</li> </ul>
3	4編 情報の技術 4編1章 情報の技術の原理・法則と仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータに共通する機能を調べる。</li> <li>・コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアを分類する。</li> <li>・情報のデジタル化の方法を調べる。</li> <li>・インターネットなどの情報通信ネットワークの基本的な構成を調べる。</li> <li>・情報を安全に利用するための仕組みを調べる。</li> </ul>

評価の観点・方法

以下の観点に基づき、生徒一人一人の活動をしっかりと評価します。

観点（全体に対する割合）	観点の趣旨	評価資料
観点1（33%） 知識・技能	材料と加工および情報に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解している。  製作図をもとにして、材料取り、部品加工、組立て・接合、仕上げができる。切断、切削などに必要な工具や機器を正しい使用方法に基づいて適切に操作することができる。	PC課題（達成状況） 定期テスト 実習作品 作図
観点2（33%） 思考・判断・表現	製作品の使用目的や使用条件を明確にし、社会的、環境的および経済的側面などから材料、使いやすさ、丈夫さなどを比較・検討したうえで、製作品やその構成部品の適切な形状と寸法などを考えている。	レポート 定期テスト 実習作品 実習の観察
観点3（33%） 主体的に学習に取り組む態度	材料と加工および情報に関する技術の課題を進んで見つけ、社会的、環境的および経済的側面などから比較・検討しようとするとともに、適切な解決策を示そうとしている。	授業の様子（発言・態度） レポート プリント 実習作品